

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

上下水道が抱える課題 地域ごとに異なる事情と対応策

水道料金は各市町村によって大幅に異なる。電気やガスと同様に民営化に向けた動きも見られるが、法律や管轄が複雑にからみ合う上下水道には設備の老朽化などの課題も多く、戦後の整備以来、経営の変革まで含めた対策に迫られている。

- 【上水道】 普段生活で使用している水道のこと。水道法により、各市町村が事業を実施している。
- 【下水道】 市町村が管轄する公共下水道ほか、都道府県が管轄する流域下水道などもある。汚水処理だけでなく、雨水を排除して浸水を防ぐ役割も。



▲水の循環図 出典:日本下水道協会

市町村間の 上下水道料金の差は大きい

各市町村間の上下水道料金は、浄水場や下水処理場、配管など設備の維持・管理にかかる費用がほとんどを占めている。配管が長くなれば費用もかさむため、特に人口の少ない山間部は一世帯あたりの負担が大きくなるようだ。また、利用料金だけ

■上下水道料金表 (円)

	上水道	下水道
池田市	2,548	1,328
箕面市	2,904	1,829
豊中市	2,451	1,395
吹田市	2,235	1,568
摂津市	2,728	2,257
茨木市	1,998	1,998
高槻市	2,376	1,930
神戸市	2,516	1,566
西宮市	2,727	1,745
芦屋市	2,484	1,458

(注)20ml/月 使用の場合、小数点以下は繰り上げ。メーター使用量などは含まず。4月17日現在各市HPをもとに作成

ではその費用をまかなえないため、税金を財源とする公費の投入も大きく、料金は自治体の財政状況によっても左右される。料金設定は各自治体の判断にゆだねられているが、人口減少が続く中、公費負担は増加傾向にあり、全国的に水道料金の値上げに踏み切る自治体も多い。

設備の老朽化に収入減少… 地域ごとの対応が急務

下水道は、高度経済成長期に集中的に整備が進められてきたが、現在では老朽化が進み、次々に更新時期を迎えている。しかし、更新や耐震化はなかなか進まない。平成26年度の調査では、全国で法定耐用年数を過ぎた上水道老朽管の残存率は全体の12.1%にのぼり、特に大阪は27.2%と全国ワースト1に。人口減少や節水意識により水の需要が減り、料金収入も減少したことで、更新にかかる財源の確保が困難になったためだ。しかし、管の老朽化は漏水事故や水道管破裂の原因とな

■水道管路の法定耐用年数(40年)を超えた管延長・割合

		管延長(km)
1	大阪府	6,527.4
2	神奈川県	5,533.9
3	愛知県	5,369.7
4	北海道	3,809.8
5	兵庫県	3,718.7

		残存率(%)
1	大阪府	27.2
2	神奈川県	21.4
3	山口県	19.4
4	奈良県	17.5
5	香川県	16.9

平成26年度版水道統計より

る。水需要に見合った施設へのダウンサイジングも含め、住民に納得できる形での早急な対応が求められている。中でも、兵庫県は都市部と山間部が混在するためにエリア間格差が大きく、それぞれの地域特性に応じた対策が必要となる。また、専門職員の高齢化により技術力の低下や技術継承が困難な状況にあり、今後の課題は山積みだ。

施設の統廃合など 安定経営を目指す

兵庫県では昨年、有識者や県、市町が一体となり協議・検討する「兵庫県水道事業のあり方懇話会」を設立。広域連携の検討の設置を進め、不足する専門職員の確保・育成を目的とした支援の仕組みづくりの検討を行っていく。大阪市でも、上水道の民営化が検討されてきたが、水の品質維持や安定供給を巡って議会での反発が広がり、可決には至らなかった。大阪府では現在、上水道の事業統合を進め、大阪広域水道企業団による経営の一体化を推進。概ね20年程度を視野に入れ「府域一水道」を目指す。

一方下水道については、兵庫県では、下水処理施設の統廃合をスムーズに進めるとともに、まちづくり技術センターによる講習会の開催で技術者の育成をサポートするなど、対策を進めている。大阪府でも経営基盤の強化のために平成30年度から公営企業法を適用させ、財政状況の問題点を洗い出すことで安定的な事業運営を目指す。

県立の施設 使用料見直し 高校生無料に

兵庫県は、県立施設の観覧料や使用料を見直し、4月から新料金を実施している。県立美術館や考古博物館、フラワーセンターなど16施設で、高齢者減免要件を65歳(一部施設は60歳)以上から70歳以上に引き上げた。県によると「元気な高齢者が増え、現役で仕事を持つ人も増えているため」という。また、若者の学習機会の拡充を目的として、これまで中学生以下の児童・生徒が観覧無料だったところを、11施設で高校生も無料とした。学生証などの提示が必要になるため、学生でない場合は一般料金となる。

そのほか、40施設で、2014年の消費税増税時に10円単位で値上げされた料金を原則100円単位へと簡素化した。こ

れは、利用者の利便性の向上と事務処理の効率を推進するものだ。

■県立施設の観覧料・使用料の見直し

- 観覧料(11施設)
 - 65歳(一部施設は60歳以上)→70歳以上に
 - 中学生以下の児童・生徒は無料→高校生も無料に
- 県立美術館 神戸市中央区
- 横尾忠則美術館 神戸市灘区
- 兵庫陶芸美術館 篠山市
- 考古博物館 播磨町
- 歴史博物館 姫路市
- 人と自然の博物館 三田市
- 人と防災未来センター 神戸市中央区
- フラワーセンター 加西市
- 淡路夢舞台公園 淡路市
- 円山川公園 豊岡市
- 舞子公園 神戸市垂水区

施設使用料(5施設)

- 65歳(一部施設は60歳以上)→70歳以上に
- 尼崎スポーツの森 尼崎市
- 円山川公園 豊岡市
- 総合体育館 西宮市
- 海洋体育館 芦屋市
- 県立武道館 姫路市

アサリに貝毒検出 採取禁止の呼びかけ

兵庫県は3月、芦屋市の海岸で採取したアサリから、規制値を上回る貝毒が検出されたと発表した。プランクトンを餌とするカキやアサリなどの二枚貝やその捕食生物であるイシガニが有毒プランクトンを食べることで毒化し、この貝を人が食べると食中毒を起こすことがあるという。

有害なプランクトンは毎年、水温が13~15度くらいになる春頃が増え、20度を超えると減少する。一部の毒を持つプランクトンを摂取することによって、貝自体が毒素を蓄積して毒化し、プランクトンがいなくなれば、毒は貝から排泄される。二枚貝以外の貝類(アワビやサザエ)、魚類



▶貝毒が採取された芦屋市の海岸。

やそのほかのカニは安心して食べることができるとしている。ただ、漁業は禁止区域や条例の定め等があるので、事前に各市HPなどで確認を。

県は、安全性が確認されるまでの間、神戸、西宮、芦屋の海岸でアサリなどの二枚貝の採取を行わないよう呼びかけている。なお、調査は毎週行い、検査結果を県立農林水産技術総合センターのホームページで公開している(4月17日現在、依然基準値を超えている)。